



願いは「叶う」ものではなく「叶える」ものに

今週7月7日（金）は七夕です。私は、子供たちが短冊にどんな願い事を書くのかを楽しみにしていました。七夕が近づいた昨日、朝から1年生の子供たちが、色とりどりの短冊に願い事を書いていました。廊下に飾られた短冊を見ると、「あしがはやくなりますように」「じがうまくなれますように」といった自分でいろいろなことができるようになることを願ったものもあれば、「にんきのあいどるになりますように」「サッカーせんしゅになりますように」といった将来の夢を書いたものもありました。どれも1年生の素直な思いが表現されていて、短冊を読むたびに笑みがこぼれました。

さて、これらの願いについて、私は運良く願いが「叶う」というより、自分で努力を重ねて願いを「叶える」という男川っ子の姿に期待しています。“願い”を自分の“目標”とし、それに向かって頑張るプロセスこそが、自己の成長にとって最も大切であると思うからです。子供たち一人一人の頑張りを心から応援しています。



▲願い事が書かれた短冊



▲1年生の教室の前に飾られた七夕飾り



7月2日（日）に「おやじの会」の皆様が、今年も七夕飾り用の笹を全学級分用意して、学校に届けてくださいました。子供たちのために、献身的ご尽力くださり、本当にありがとうございました。



自分の可能性に挑む ～中日・岡林勇希選手の挑戦に学ぶ～

昨日、月曜集会で、中日ドラゴンズの岡林勇希選手の挑戦について話をしました。実は、岡林選手は、私の中学校の後輩に当たります。そんな縁もあって、私は日々岡林選手の活躍に注目しています。

岡林選手は、2019年のドラフト会議で中日から5位指名を受け、投手として入団しました。しかし、兄（元広島東洋カープの選手）から「プロで野球を長く続けるなら野手の方がよい」という助言を受け、2020年に外野手に転向しました。野手への転向は大きな決断と挑戦であったと思いますが、岡林選手はひたむきに打撃や守備の練習に打ち込みました。そして、高卒3年目の昨シーズン、その努力と才能が開花し、セ・リーグの最多安打を記録しました。自分の可能性を信じ、努力を続けて成功を収めた岡林選手の姿から、男川っ子には、自分で決断し、自分を信じて挑戦する姿勢を学んでほしいです。



▲岡林勇希選手
(Yahoo! Newsより)